第530号

# 学校だより

横浜市立初音が丘小学校

6月号

令和 5年 5月 29日

は発信する　つ追究する　ね粘り強く　がつながる　お思いや願いを実現しようとする　か課題解決する

## 育むために必要なこと

副校長　坂本　陽子

３月に開催されたWBCワールドベースボールクラッシク世界野球ソフトボール連盟が公認する野球の世界一決定戦。大会の結果は、決勝で日本が３対２でアメリカに勝利して３大会ぶり３回目の優勝を果たしました。このチームの中心選手の一人である大谷翔平選手。WBCが終わった今も尚、毎日のようにテレビなどのメディアに取り上げられています。

この、大谷翔平選手が日本ハムファイターズで育成に関わったコーチである白井一幸さん。３年前に研修の講師として「人を育てること」というテーマで講演をされたことがありました。学校の教員に向けての講演でしたので、野球界でコーチ・監督として経験され、実践されたことを、教員、児童に置き換えて話され、時にジョークを交えながらの９０分の講演会はあっという間におわりました。

人を育てる、機能するチームを作るときに考えたことは、選手自らが考えて行動し、成長する環境づくりをするということでした。

さて、成長するときの環境づくりとはどんなことなのでしょう。

一つ目は、教えすぎないこと。「教える」ことは大事ですが、教え過ぎることの弊害もたくさんあります。つい転ばぬ先の杖と思い、予め想定できることへの対処法や出来事を伝えることがあります。それは、失敗をしないようにとの親心からかもしれません。ただ、このように子どもの頃から教え続けられていて、自分で考えることをしないようになってしまうことは子どものためにはならないのではと思います。ここで、教員や親、指導者ができることは、信じてあげること。うまくいかない時ほど、励まし続けること、時には静かに隣に寄り添ってあげることです。

二つ目は、コミュニケーションをとること。問題や課題に対して、それを解決するために、また、乗り越えていくために一緒に考えようということです。教えすぎないことに対する方法として、「問い」を発して対話をすることが「思考停止」をさせないことですし、その対話を通して問題を解決していくためのヒントや方法を導くことができます。その時に、答えが限られる限定質問ではなく、拡大質問が有効です。つまり、「はい」「いいえ」を答えるだけのものではなく、課題にもよりますが理由や思い、気持ちが言えるような問いがよいでしょう。

また、「振り返り」という視点も有効です。うまくいかなかったこと、よかったこと、その時思ったこと、感じたこと等を話したり、書いたりすることで、改善点が分かったり、前に進む気持ちをもったりすることができます。この時に、否定せずに聞くことが大事です。否定された気持ちになってしまうと、コミュニケーションの扉は閉ざされてしまいます。

人やチームを育てることには、時間と根気が必要です。学校、家庭、地域が繋がり、関わり合って子どもを育んで参りましょう。引き続きの、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

～すべては、子どもたちの笑顔のために～